

相模原市中央区区民会議 報告書

～ 区民や地域の連携、若い世代のまちづくりへの参加について ～



平成28年7月

相模原市中央区区民会議



目 次

1	相模原市中央区区民会議の取り組みについて	1
2	中央区区ビジョンと区民会議	2
	（１）区ビジョンとは	2
	（２）区民会議の概要	3
3	平成26年度 相模原市中央区拡大区民会議	4
	（１）テーマ設定	4
	（２）開催概要	4
	（３）会議結果	6
	（４）議論のまとめ	11
4	平成27年度 相模原市中央区拡大区民会議	13
	（１）テーマ設定	13
	（２）開催概要	14
	（３）会議結果	16
	（４）議論のまとめ	24
5	審議経過	28
	（１）中央区区民会議の審議内容（概要）	28
	（２）第3期 中央区区民会議委員名簿	31
6	結びにかえて	32
資料編 中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト		35
1	プロジェクトの目的・視点	35
2	組織	35
3	各プロジェクト班	36
	（１）防犯・交通安全プロジェクト	36
	（２）福祉・健康プロジェクト	37
	（３）文化・教育・スポーツプロジェクト	38
	（４）商業・イベントプロジェクト	39
	（５）魅力発信プロジェクト	40
	（６）広報宣伝部	41

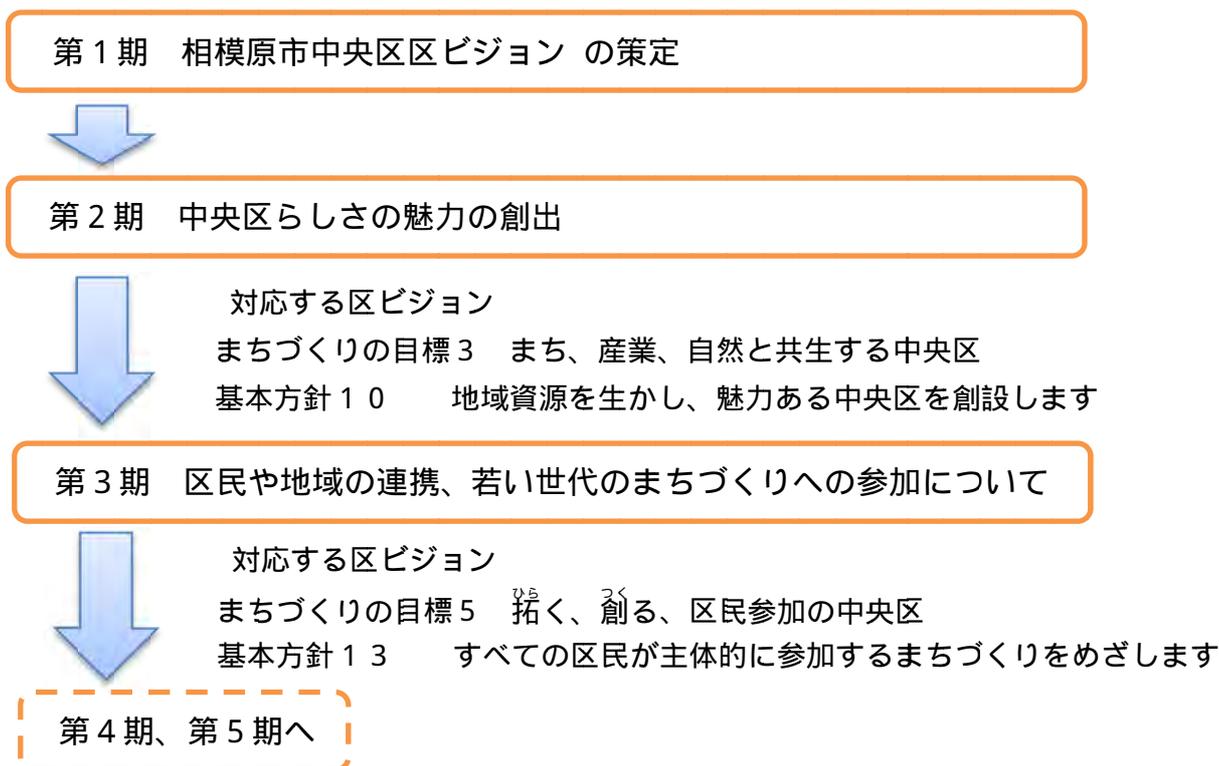
1 相模原市中央区区民会議の取り組みについて

相模原市が平成22年4月に政令指定都市に移行し、中央区が誕生して6年が経ちました。

中央区内で活動する団体などの代表者で構成し、中央区のまちづくりの方向性や地域活動を活性化するための方策などを話し合う「中央区区民会議」を平成22年7月に設置し、相模原市長から「相模原市中央区区ビジョン」の策定について諮問を受け、審議、答申いたしました。（第1期）

第2期において、中央区の魅力ある資源を“つなぐ”視点から「中央区らしさの魅力の創出」をテーマに審議したことを受け、第3期では、区民や地域の連携、次世代へ活動をつなぐための方策について幅広く区民と意見交換を行う「中央区拡大区民会議」を2回開催し、その後の区民会議において課題の共有に取り組みました。

私たちの議論をきっかけに、さまざまな立場や世代を乗り越えて、区民や地域の連携が進められ、中央区のめざす将来像である「人とまち、宇宙（そら）をつなぐ中央区」を実現するための一助となることを期待し、本報告書を取りまとめました。



中央区区民会議委員の任期

第1期	平成22年7月30日から平成24年7月29日まで
第2期	平成24年7月30日から平成26年7月29日まで
第3期	平成26年7月30日から平成28年7月29日まで

2 中央区区ビジョンと区民会議

(1) 区ビジョンとは

平成22年4月に政令指定都市移行に伴い、区を単位とした「区民会議」、まちづくり区域を単位とした「まちづくり会議」が設置され、区民とともに区の特長や地域資源を生かしたまちづくりを進めていくための仕組みが整いました。

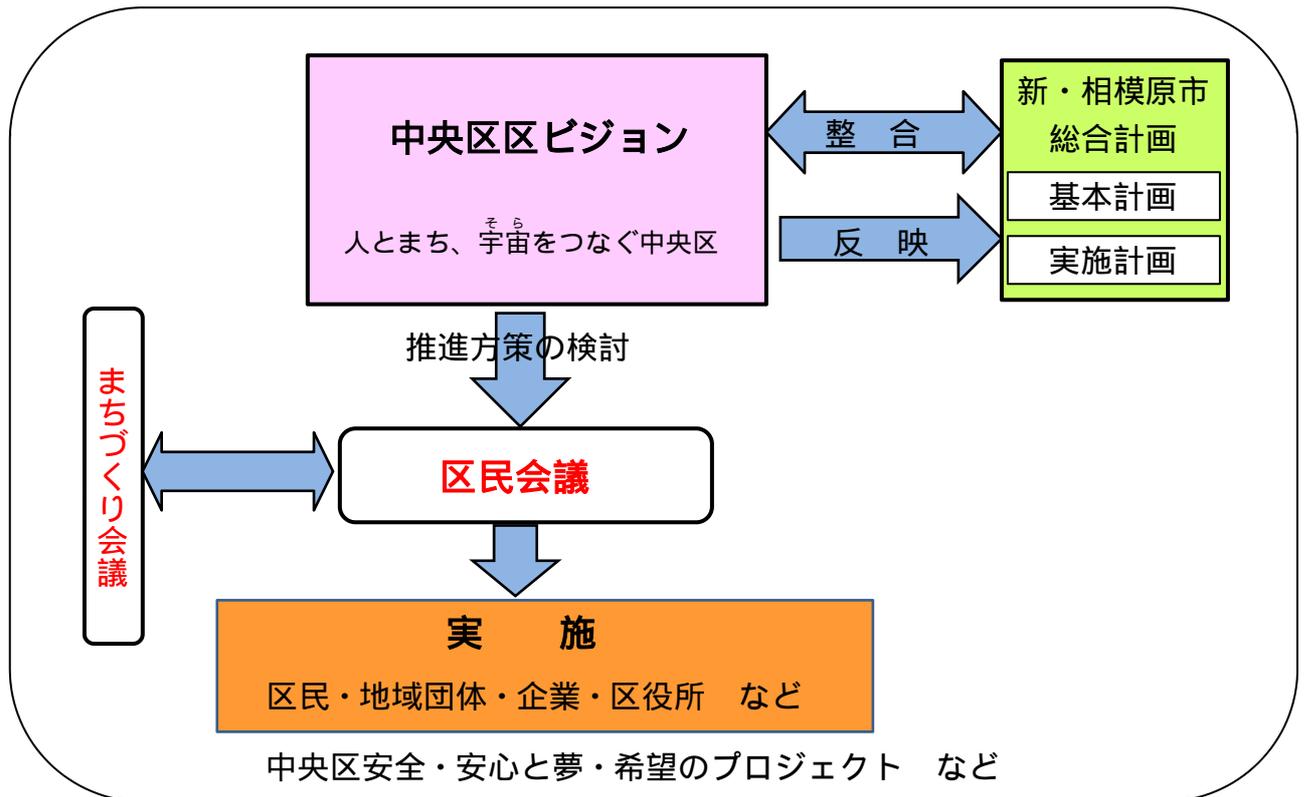
区ビジョンとは、「新・相模原市総合計画」を地域の視点で捉え直し、区の課題、魅力、特徴を踏まえた上で区をめざす将来像を明らかにして、その実現に向けて区民と行政がともに進めるまちづくりの基本的な方向性を示すものです。

中央区区ビジョンの体系

将来像 「人とまち、^{そら}宇宙をつなぐ中央区」

まちづくりの目標		基本方針	
1	ともに支え合い、笑顔と思いやりがあふれる中央区	1	地域の福祉向上と心と身体の健康づくりに努めます
		2	地域の安全・安心対策に取り組みます
2	認め合い、高めあい、学びあう活力ある中央区	3	自ら学び、心豊かに成長できる環境を整備します
		4	生涯スポーツの充実とスポーツの振興によるまちづくりを進めます
		5	文化の振興に取り組みます
		6	人権尊重・男女共同参画を推進します
3	まち、産業、自然と共生する中央区	7	環境にやさしいまちづくりを進めます
		8	緑地の保全・活用、水辺の保全・創出に取り組みます
		9	地域経済を支える産業を振興します
		10	地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出します
4	未来に夢が広がる中央区	11	拠点整備と相模総合補給廠の早期返還、小田急多摩線延伸をめざします
		12	地域を支える交通環境の充実を図ります
5	ひらく、つくる、区民参加の中央区	13	すべての区民が主体的に参加するまちづくりをめざします
		14	身近でわかりやすい行政サービスや情報の提供に努めます

【区ビジョンの推進体制】



(2) 区民会議の概要

ア 目的

区内の課題やまちづくりの方向性について、次の事項について協議を行うことを目的に設置されています。

- ・市長より諮問される事項
- ・魅力や住みよさを高めること及び地域課題の解決
- ・地域活動団体等の活動支援や活性化
- ・その他区民会議の目的達成に必要な事項

イ 設置の根拠

附属機関の設置に関する条例に基づきます。

ウ 委員

委員数 25人

(各地区代表9人、関係団体11人、公募委員3人、学識経験者2人)

3 平成26年度 相模原市中央区拡大区民会議

(1) テーマ設定

第2期区民会議において、中央区の自然や施設などの有形の資源のほか、区民活動などの無形の資源を“つなぐ”視点で「中央区らしさの魅力の創出」について議論を重ねました。

そこで、第3期第2回の区民会議となる、平成26年度「相模原市中央区拡大区民会議」においては、「区民や地域の連携・協力による魅力あるまちづくりに向けて」をテーマに、区民が主体となって、地域の有形・無形の資源をつなぐための必要な方策について、地域におけるさまざまな取組み事例を交え、議論を深めました。

(2) 開催概要

- ア 日時 平成26年11月24日(月・祝) 13時から15時50分まで
イ 会場 けやき会館 大樹の間
ウ テーマ 区民や地域の連携・協力による魅力あるまちづくりに向けて
エ 進行

開 会

佐藤中央区長、井狩中央区区民会議会長あいさつ

第1部 基調講演

テーマ 魅力あるまちづくりに向けた連携・協力のヒント

講演者 牧瀬 稔さん

プロフィール

所属 一般財団法人地域開発研究所主任研究員

法政大学大学院公共政策研究科兼任講師

専門分野 自治体政策学、地域政策、地方自治、行政学

最近の主な活動

「シティプロモーション(都市・地域の売り込み)」、「地域ブランド(地域の差別化)」、「自治体シンクタンク」、「議員提案政策条例」、「人口減少時代のまちづくり」など、多岐にわたるテーマで講演。また、時事通信社の「iJAMP」や日本経済新聞社の「日経グローバル」など、多数連載。

第2部 パネルディスカッション

井狩 芳子さん（コーディネーター）

プロフィール

中央区区民会議会長

和泉短期大学児童福祉学科教授

専門分野等

健康学、体育学、保育内容「健康」

相模原市青少年問題協議会会長、相模原市男女共同参画審議会会長 等

石井 トシ子さん（パネリスト）

発表テーマ 公民館活動を通じた地域のつながり

プロフィール

中央区区民会議委員

相模原市公民館連絡協議会副会長、光が丘公民館館長

特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら（愛称：NPO法人サーラ）副代表理事

佐々木 亮一さん（パネリスト）

発表テーマ 選ばれるまち相模原（中央区）と協働

プロフィール

中央区区民会議員

公益社団法人相模原青年会議所 2014 年度理事長

平林 清さん（パネリスト）

発表テーマ よいまちをつくるためには

プロフィール

中央区区民会議委員

光が丘地区まちづくり会議会長、相模原市自治会連合会副会長

光が丘地区自治会連合会会長、光が丘ふれあいセンター代表理事

横山 房男さん（パネリスト）

発表テーマ 地域で拠点となり発信する商店街へ

プロフィール

中央区区民会議委員

相模原商工会議所 1 号議員、相模原中央商店街協同組合理事長

一般社団法人相模原市観光協会理事、相模ねぶたカーニバル実行委員会副実行委員長

閉 会

田所中央区区民会議副会長あいさつ

(3) 会議結果

開催日時	平成 2 6 年 1 1 月 2 4 日 (月 ・ 祝) 1 3 時 ~ 1 5 時 5 0 分
会 場	けやき会館 大樹の間
出席者	中央区区民会議委員 2 2 名 会場参加者 1 2 2 名 事務局 (中央区役所) 2 4 名
会議内容 (要旨)	
第 1 部 (基調講演)	<p>講演者 牧瀬 稔氏 (一般財団法人地域開発研究所主任研究員) テーマ “ 魅力あるまちづくりに向けた連携・協力のヒント ”</p> <p>「魅力あるまち」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人により感じ方が異なり、様々な主体に共通する「魅力あるまち」は何かということが一番難しい。 ・「まちづくり」では同じ方向性が必要 <p>「連携・協力とは何か」 “ 目的の共有化 ”</p> <p>* 連携・協力がうまくいった事例 境港市の「鬼太郎ロード」 当初は商店街活性化、現在は事業者、地元市民、行政の連携・協力による地域活性化の実現</p> <p>「協働」(ともにつくっていく) = 「連携・協力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「協」の字は、3つの「力」が足されている「+」 行政の「力」+ 地域住民の「力」+ 事業者の「力」 ・協働の取組みが楽しく、まわりの人が「楽しそうな活動なので参加したい」と思うようなことが必要 <p>* 相模原市市民協働推進条例では 協働とは、「市民と市及び市民と市民が、目的を共有してそれぞれの役割及び責任の下で、相互の立場を尊重し、協力して、公共の利益を実現するために活動することをいいます」</p> <p>「協働」の3つのポイント (“ 目的の共有化 ” のもと)</p> <p>“ 協働の意義と役割の明確化 ”</p> <p>役割分担が分断しないように、緩やかな分担</p> <p>“ 過程重視 ”</p> <p>過程を重視した方が結果的に魅力ある地域づくりにつながっていく。</p> <p>チーム志向・チーム化</p> <p>チームとは、「ある目的のために協力して行動するグループ」</p>

<p>第1部 (基調講演) (続き)</p>	<p>「魅力あるまち」を作る第一歩が「協働」 ・まちづくりを協働で進める。協働で進めることにより地域に誇り、愛着が生まれる。(シビック・プライド)</p>
<p>第2部 パネルディス カッション</p>	<p>パネリストの「発表」</p> <p>石井トシ子 中央区区民会議委員(相模原市公民館連絡協議会副会長) “公民館活動を通じた地域のつながり”</p> <p>相模原市の公民館の特徴 ・教育性、開放性、地域性、自治性。住民主体の公民館運営。 ・キーワードは、“公民館から元気・地域の輪”(つなぐということ)</p> <p>各地区の公民館で地域の特性を生かした事業例 ・休耕田を生かしたもち米作り(田名公民館) ・地域国際交流イベント(大野北公民館)</p> <p>今後の取組みと課題 ・公民館活動の協力者、参加者の高齢化、固定化 ・地域課題を共有して、講座や事業に課題を生かした事業化</p> <p>公民館のめざす姿・目標 “笑顔あふれる公民館”、多くの人が集まり出会う“地域の拠点としての公民館”</p> <p>佐々木 亮一 中央区区民会議委員 (公益社団法人相模原青年会議所理事長) “選ばれるまち相模原(中央区)と協働” 「選ばれるまちさがみはら」は、相模原青年会議所の理念</p> <p>相模原青年会議所の活動 ・20~40歳の相模原市在勤・在住で相模原市のまちをよくしようとまちづくりに興味がある人で事業を実施 ・運動のキーワードは「協働」</p> <p>(事業例) ・相模原市民桜まつりの運営と事業 テーマ“地域の魅力発信ベース 知ろう相模原 行こう大船渡” ・「流しそうめん世界大会」 ・「学生とともに考える相模原 ハイスクール&カレッジ議会」 ・「相模原 秋の大市民まつり」</p> <p>まちづくり活動で感じること ・何のために協働するかという目的が大切 ・協働していく人との人間関係、信頼関係が大切</p>

<p>第2部 パネルディス カッション (続き)</p>	<p>平林 清 中央区区民会議委員(光が丘地区まちづくり会議会長) “よいまちをつくるためには” 「よいまち」とは ・自分たちのまちに関心をもつ住民が多いこと 「よいまち」をつくるための3つの事項 情熱があるリーダーが必要 順番で任期1年の役職ではなく、意欲、情熱のある人材の積極的な活躍が必要 住民による組織参加 ・自治会への加入促進活動として、わかりやすいパンフレットの作成、自治会報や地域情報誌での積極的な情報提供が大切 ・「光が丘地区人材ネット」の設立。 自分たちのできることは自分たちでやるという自主自立の精神 ・志願による独立防災隊(10自治会で) ・地区社会福祉協議会による街並み点検 ・コミュニティ施設「光が丘ふれあいセンター」の設立 ・淵野辺公園留保地の草刈り 結果、散策路ができ、パークゴルフ場の開設につながった。 取組みの課題 ・マンションやアパートでの効率のよい自治会加入促進活動 ・役職の任期が短い場合の人材発掘の難しさ</p> <p>横山 房男 中央区区民会議委員(相模原商工会議所1号議員) “地域で拠点となり発信する商店街へ” 背景 大型小売店が強い中、商店街が生き残るために... 地域の人とともにまちづくり ・中央商店街として、2分の1は地域貢献をする。 ・「美術・芸術のまち」というテーマで、「絵本コンクール事業」を開始 中央商店街の近隣の小学校の参加(現在9校) こけ丸の誕生 ・まちを活性化して、このまちに住みたい、お店を出したいという人を多く集める。 「ペインティングパフォーマンスグランプリ2014」の開催 ・事業者、市民と行政の協働による開催 実行組織は、近隣の美術系を含む大学生、高校生、自治会からも参加があり、店主では無い方が3分の2を占めた。 今後も市民が暮らしたい、商店を出したいと感じるまちづくりを継続していきたい。</p>
--	---

<p>第2部 パネルディスカッション (続き)</p>	<p>パネルディスカッション・意見交換 会場参加者、パネリストからの主な意見等</p> <p>：会場参加者、：パネリスト、：牧瀬稔氏</p> <p>(リーダーの育成について)</p> <p>情熱のあるリーダーづくりについて、3、4年務めている自治会長などをどのように探して育成していくか知りたい。</p> <p>役員の担い手と継続について、役員として活躍するような人たちの予備軍を作るとよいと思う。自治会の役員に複数名の運営委員という役職を作ったりして、リーダーを育成していく。</p> <p>できる人には、どんどん自治会の仕事を任せて、うまくいったらさらに任せていく。信頼して任せるということはとても大切と感じる。仕事をもちながら自治会長を務めるのは負担が大きい。自治会行事の統合やスリム化も必要と感じる。</p> <p>基調講演で「誇りと愛着」という話があったが、どうしたらそう感じるか、地域で何かをやったという実績を残していく必要があると思う。また運営に関わった役員にも喜びが生まれると思う。</p> <p>(自治会加入率について)</p> <p>相模原市全体でも自治会加入率が低下している状況で、マンションやアパートの集合住宅の居住者への加入対策として、不動産事業者との連携が必要だと思う。</p> <p>相模原市全体としてマンションの自治会加入率は低い。一方で管理組合が自治会に近い活動を行っている事例があるので、自治会と管理組合が両立しづらいという事情がある。</p> <p>若い世代の人はマンションやアパートに居住している場合が多く、管理組合があるから自治会に加入する必要はないと思っている場合が多いようだ。</p> <p>管理組合が、直接自治会活動に関われるようなしくみができれば、実質的に管理組合が自治会と同じような活動を行っている場合、自治会と連携できるのではないかと思う。</p> <p>自治会加入促進で、具体的に自治会活動の成果をアピールしていった方がよいと思う。自治会が市に要求して道路舗装や公園を作ってもらったことなど、自治会活動の成果を地域情報誌などで周知する。私の自治会ではかなり高齢化が進み、自治会費を納めるだけで活動やイベントに参加しない会員が増加していて、自治会活動の継続が困難になってきている。高齢化の課題とともに何かよい手立てはないか。</p>
-------------------------------------	---

年をとって自治会を脱会する人には、地区の社会福祉協議会（社協）や民生委員児童委員連絡協議会（民児協）が面倒を見てくれるので自治会に入っている必要がないという人がいるが、自治会は社協、民児協と相互に協力しているので、自治会に加入することの大切さを説明した方がよい。

戸建住宅でも若い世代が自治会に加入しない実状がある。自分の生活に精一杯で地域活動に参加しないようだ。また「協働」という概念を持ち合わせていないと感じる。行政に求める部分がかかり多いようで、例えば地域での子どもの見守りは行政がやるべきだという意見がある。自治会に面倒を見てもらわなくても、行政に要求していくと考えている人がいる。

（取り組みの目標と成果の設定について）

パネリストの発表を聴いていて、取り組みや活動に目標や成果が明確になっていないと感じた。

光が丘公民館では、「若い世代や新しい人たちの参加」を目標として、事業ごとに評価している。また女性学級で運営委員をした人が、次にPTAの役員、まちづくり会議委員と地域で活躍していくことは成果だと感じている。

相模原青年会議所のめざすものは、「選ばれるまちさがみはらを創造する」として、そのために「魅力あるまち」にするための取り組みが目標となる。成果が測れるものは事業に参加した人数で、事業とともに実施した協力者も含める。

光が丘地区では独立防災隊の組織率を目標設定している。20自治会を対象としていて、現在半数の10自治会で組織している。50%の組織率をいずれ100%にしたい。

中央商店街がめざすものは、「誰もが笑顔で暮らすまち」だが、成果を数字に表すことは難しく感じる。アートなどのイベントを開催した際、美術系の学校や自治会などに協力いただけることが、めざしているものを理解してもらっていることの指標になる。

（テーマの設定について）

地域で連携・協力を築いていくためには、みんなで取り組めるテーマの設定が一番必要ではないかと思う。

テーマの設定のポイントは、合意しやすいものと反対しづらいものである。例えば安全・安心などである。重要なのは過程を大切にしてい、「思い出作り」をしていくことである。思い出があると誇りをもてる。思い出があると頑張れる。

(4) 議論のまとめ

拡大区民会議に参加した区民と区民会議委員が行った意見交換や、その後の区民会議において議論した内容について、課題を解決するためのヒントや事例としてまとめました。今後の地域活動活性化のヒントとなれば幸いです。

リーダーの育成

現状や課題

- ・情熱があるリーダー育成に課題がある。
- ・仕事をもちながら役員、特に自治会長を務めるのは負担が大きい。
- ・地域への誇りや愛着をどのように醸成するか。

解決するためのヒントや事例

- ・地域活動に関わり、何かをやったという実績や達成感を残していく必要がある。
- ・自治会の正副会長の補佐をする役職を作り、地域活動に関わった人から3年から5年程度継続の期間をかけて、将来的に担える人材を育てる。
- ・できる人には役割を任せて、うまくいったらさらに任せていく。信頼して任せるといことが大切である。
- ・自治会行事の統合やスリム化も必要である。

自治会加入の促進

現状や課題

- ・マンションについては、自治会と管理組合の両立が難しい。
- ・若い世代の自治会加入率が低い。
- ・自治会活動に参加できない、中途脱会する高齢世帯の対応が難しい。

解決するためのヒントや事例

- ・管理組合が自治会に近い活動を行っている事例があるので、自治会と管理組合が両立しにくい事情がある。
- ・市自治会連合会と不動産関係団体が自治会加入促進に向けた協定を結び、対策を進めている。
- ・自治会活動の結果、住環境が良くなった事例などをもっとアピールする必要がある。

地域で連携・協力を築いていくためのテーマ設定

現状や課題

- ・地域活動のスタートとして、どのようなテーマが良いか。
- ・世代を超えて、皆が取り組めるテーマとは何か。

解決するためのヒントや事例

- ・合意形成しやすい、反対されにくいテーマ、具体的には「安全・安心」から始めるのがよい。
- ・事業やイベントは活動の経過を大切に、参加者が「思い出」を作ること、地域への誇りが生まれる。
- ・「思い出」や「地域への誇り」をもとに、一致団結し、次のテーマへ進んでいける動きが重要である。



基調講演



パネルディスカッション（発表）



パネルディスカッション（意見交換）

4 平成27年度 相模原市中央区拡大区民会議

(1) テーマ設定

前年の「相模原市中央区拡大区民会議」において、新たな地域活動の担い手を発掘、育成するうえで「若い世代」の地域参加が進まないという課題や、中央区の貴重な財産である大学との連携が良好に進んでいる事例について意見がありました。

そこで、今後の区民会議の議論に生かしていく取り組みとして、「若い世代の地域活動、まちづくりへの参加について」をテーマに、当事者である「若い世代」と現在の地域活動の担い手が意見交換できる分科会形式を採用した会議を開催しました。

第2期 中央区らしさの魅力の創出



中央区の自然や施設などの有形の資源のほか、区民活動などの無形の資源を“つなぐ”視点で「中央区らしさの魅力の創出」について議論を重ねました。

第3期 区民や地域の連携、若い世代のまちづくりへの参加について

平成26年度 相模原市中央区拡大区民会議

～ 区民や地域の連携・協力による魅力あるまちづくりに向けて ～

「区民や地域の連携・協力による魅力あるまちづくりに向けて」をテーマに、区民が主体となって、地域の有形・無形の資源をつなぐための必要な方策について、地域におけるさまざまな取組事例を交え、議論を深めました。

新たな地域活動の担い手である「若い世代」を発掘、育成することは、地域活動団体の共通した課題であることや、中央区の貴重な財産である大学生との連携が成功している事例について意見交換されました。

平成27年度 相模原市中央区拡大区民会議

～ 若い世代の地域活動、まちづくりへの参加について ～

現在の地域活動の担い手が「若い世代」の声を聞くことで、若い世代の地域活動への参加に向けた現状や課題が共有され、解決に向けたヒントが見えてくるのではないかとという視点から、区民が発言しやすい雰囲気をおこした分科会形式を採用した会議を開催しました。

(2) 開催概要

ア 日時 平成27年11月15日(日) 13時から16時50分まで
イ 会場 相模原市民会館 第1大会議室ほか
ウ テーマ 若い世代の地域活動、まちづくりへの参加について
エ 進行

開 会

佐藤中央区長、井狩中央区区民会議会長あいさつ

第1部 基調講演

テーマ 地域活動、まちづくりへの課題 - 若者世代・学生・子育て世代 -

講演者 和田 清美さん

プロフィール

所属 首都大学東京 都市教養学部 都市政策コース 教授

専門分野 都市社会学、コミュニティ形成・まちづくり論、市民参加論

最近の主な研究

- ・『大都市東京の町内会・自治会 - 東京都世田谷区・墨田区・八王子市の地域リーダー・アンケート調査報告書』(平成21年3月)
- ・『NPO・ボランティア団体の実態と担い手に関する調査 - 東京都西東京市の社会調査実習報告』(平成25年3月)

主な著作

- ・『大都市東京の社会学』(単著)平成18年
- ・『地域・生活・国家』(共編著)平成24年6月
- ・「地域コミュニティ」『都市社会学・入門』(松本康編著)平成26年9月

最近の主な審議会の活動

- ・八王子市消費生活審議会会長(平成23年6月～現在)
- ・相模原市市民協働推進審議会委員(平成24年8月～平成26年8月)

第2部 分科会

第1分科会

テーマ 若い世代の地域参加について

コーディネーター 石井 トシ子さん

プロフィール

中央区区民会議委員、相模原市公民館連絡協議会委員、光が丘公民館館長
特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら(愛称:NPO法人サーラ)
副代表理事

第2分科会

テーマ 学生の地域参加について

コーディネーター 久松 伸さん

プロフィール

中央区区民会議委員、麻布大学 生命・環境科学部環境科学科講師

第3分科会

テーマ 子ども、子育てを通じた地域参加について

コーディネーター 清水 洋子さん

プロフィール

中央区区民会議委員、相模原市私立保育園園長会

第3部 全体会

コーディネーター 井狩 芳子さん

プロフィール

中央区区民会議会長、和泉短期大学教授

閉 会

田所中央区区民会議副会長あいさつ

(3) 会議結果

開催日時	平成 2 7 年 1 1 月 1 5 日 (日) 1 3 時 ~ 1 6 時 5 0 分
会 場	相模原市民会館 第 1 大会議室ほか
出席者	中央区区民会議委員 2 0 名 会場参加者 6 0 名 事務局 (中央区役所) 1 4 名 (第 1 部、第 3 部) 9 名 (分科会運営担当)
会議内容 (要旨)	
第 1 部 (基調講演)	<p>講演者 和田清美さん (首都大学東京都市教養学部都市政策コース教授) テーマ 地域活動、まちづくりへの課題 - 若者世代・学生・子育て世代</p> <p>1 都市成熟化時代における地域活動・まちづくりへの期待 都市成熟化 ・高度経済成長や急激な都市化の進行から、2 1 世紀初頭における都市型社会、人口減少、少子高齢化といった現代社会の幾重にもなる変化を都市成熟化と呼んでいる。 地域活動・まちづくりへの期待が広がる理由 ・当初は、総人口や年少者の減少、高齢化によって地域が徐々に衰退化する議論があった。 ・現在は、人口構造の変化を逆手にとって衰退化を回避し、成熟化した地域社会をいかに実現していくかという段階であるため、地域活動やまちづくりへの期待が広がっている。</p> <p>2 コミュニティ形成・まちづくりの意義と課題 「コミュニティ行政」 ・7 0 年代以降、都市化による大量の転入者を対象とした、地域活動のリーダー養成や、住民によるまちづくりに関する会議等、地域コミュニティに直接参加していく行政の仕組みづくりをいう。 「コミュニティ」から「地域」へ ・阪神淡路大震災などの災害を契機として、ボランティアや市民活動の変化、N P O 法人に関する法律の制定、自治会活動のあり方の見直し等が展開され、「コミュニティ」から「地域」という言葉が盛んに使われる変化が生じた。</p>

<p>第1部 (基調講演) (続き)</p>	<p>地域活動が「公共サービス」であること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、ボランティア活動団体といった主体の活動そのものが、地域住民に還元される公共性を持っている。 ・諸団体が公共性を持った活動を展開していることそのものが、地域活動における戦後の到達点である。 <p>地域活動における現代の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手・人材の発掘と参加の機会の提供 ・団体活動の育成と活性化 ・個別的、孤立的に活動している団体の担い手の連携や協働の不足 ・担い手間の連携を担う「コミュニティ・コーディネーター」の重要性 <p>3 地域活動・まちづくり活動と担い手の現在</p> <ul style="list-style-type: none"> - 若者、学生、子育て世代に注目して - <p>事例検討1 (町会・自治会調査：世田谷区、墨田区、八王子市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会組織は、NPOやボランティア団体といった新しいタイプの地域組織との連携が弱く、行政につながる諸団体とのネットワークが強い傾向である。 <p>事例検討2 (ボランティア団体等の実態調査：西東京市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体のリーダーのうち、10歳代から30歳代までにその活動に参加した方が約2割あり、若年者の地域活動の可能性がゼロではないことが重要である。 ・代表者の活動理由は、社会とのつながり、自己充足、貢献が多い。 <p>調査に参加した学生の提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が特定化された活動より、活動範囲が広い団体が若者を引きつける。 ・居住地区や地域だけではなく、インターネット等でつながる広がりも「コミュニティ」である。 ・若者にとって興味のある課題、話題性のある社会問題を活動内容とする必要があり、興味のある分野でなければ熱心な活動を望めない。 ・団体活動とは自分の問題を自分で解決したい人の集まりである。 ・高齢者の団体は若者の体力を、若者は団体運営のノウハウを必要としているが、どのようにつないでいくかが課題である。
--------------------------------	---

<p>第1部 (基調講演) (続き)</p>	<p>4 おわりに - 分科会に向けて - 中央区の可能性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さがみはら市民活動サポートセンターの資料によると、相模原市全体の登録団体のうち、中央区に本拠を置く登録団体が約半数あることから、地域活動が活発であることがわかる。 ・地域活性化事業交付金の活動報告書によると、若者が興味を持ちそうな事例が数多くあり、今後の活動の広がり可能性を感じた。
<p>第2部 (分科会)</p>	<p>第1分科会 コーディネーター：石井 トシ子 中央区区民会議委員 区民会議委員7名 一般参加者16名</p> <p>1 分科会のテーマについて 「現在の地域の担い手から見た、若い世代の地域参加について」</p> <p>2 取組事例について</p> <p>(ア) 光が丘地区社会福祉協議会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央区地域活性化事業交付金を活用して青少年を対象としたボランティア人材登録制度を構築し、地域イベントへの参加促進につながった。 <p>(イ) にこにこ星ふちのべ商店街の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市や中央区のシンボルとなっている「JAXA」や「はやぶさ」をテーマとしたさまざまなイベントについて、学生と連携した活動を実施した。 <p>(ウ) 意見交換のなかで寄せられた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50歳未満の若いメンバーに企画を任せて地域活動の経験者を増やした。 ・スポーツイベントなどで子どもを中心とした事業を企画し、子どもの参加に比例して、親世代の参加者を増やした。 <p>3 まとめ(課題 解決するためのヒント)</p> <p>若い世代が自由に活動できる環境が整っていない。 若い世代に参加してもらえる「きっかけづくり」が必要である。 若い世代が何を望んでいるのかを把握する。 参加する若者に明確な役割を担ってもらい、達成感を味わってもらう。 若者との信頼関係の構築が重要であり、担い手側においても彼らが何かを失敗しても次につながるような体制をとる。 若い世代が中心となり企画した事業を地域や団体が受け入れ、現在の地域の担い手が新たな担い手のサポートに回る。</p>

<p>第2部 (分科会) (続き)</p>	<p>中学生について、学校側の協力が得にくい状況があった。 中学生が参加しやすい、学校側も参加させやすい環境を構築する。</p> <p>4 JAXA存続に向けた取り組みについて 中央区区ビジョンに「人と宇宙をつなぐ中央区」という将来像があり、そのシンボルであるJAXAの存続に向けた取り組みは、区民一人一人ができるまちづくりのひとつである。</p> <p>第2分科会 コーディネーター：久松 伸 中央区区民会議委員 参加者：区民会議委員5名 一般参加者15名</p> <p>1 分科会のテーマについて 「学生から見た、学生の地域参加について」 ・中央区の人口動向の特徴は、20歳前後の転入が増加し25歳前後に転出する傾向がある。また、大学入学をきっかけに中央区へ転入した学生は、卒業後に巣立っていくため、居住する期間が非常に短いという現状がある。</p> <p>2 取組事例について (1) 和泉短期大学「子育てひろば『はっぴい』」の取り組み ・地域に根ざした子育て支援プログラムとして、学生が中心となり毎月テーマを決めて活動している。また、当初は園庭開放から始まった事業だが、地域の子どもたちと継続して活動することで現在のような事業に発展した。 ・学生にとって自主性がある活動であったため、安全性や個々の子どもたちの発達にあわせた環境設定とするなどの配慮や気配りができるようになり、自分自身の成長を感じた。 ・子どもと一緒に、親世代、祖父母世代も参加できるため、学生がいろいろな世代と交流を持つ機会となった。</p> <p>(2) 桜美林大学「大学祭実行委員会」の取り組み ・実行委員会は、約400名の学生が在籍しており、機能別に5つの部署から構成されている。 ・年間約30回程度、地域イベントに参加しているが、経験を積みたい事項や得意分野にあわせて、部署や学生を選抜して派遣している。 ・地域イベントに参加する目的は、大学祭を運営する上で必要となる経験を積むことである。 ・さまざまな世代と交流する機会が増え、コミュニケーション能力が向上するなど、自分自身の成長を感じた。</p>
-------------------------------	--

<p>第2部 (分科会) (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市外に在住しているが、地元の地域活動に対しても関心を持てるようになった。 <p>(3) 意見交換のなかで寄せられた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学生が、イベントでのごみの分別のボランティアや、吹奏楽部の演奏など、多くの場面で活躍している。 <p>3 まとめ</p> <p>(地域活動に参加した効果 課題 解決するためのヒント)</p> <p>学生が地域活動に参加すると、地域への関心や他者への気配りなど、身につくことが多い。</p> <p>さまざまな世代とコミュニケーションをとることで、地域参加へのきっかけを作ることができた。</p> <p>地域活動の経験を通じて、大学卒業後も、相模原市あるいは地元での地域活動に継続して参画していく線が繋がった。</p> <p>学生が地域活動に参加しやすい工夫が必要である。</p> <p>学生が参加しやすいテーマ設定が重要である。</p> <p>学生が個人で地域参加しようとするにはハードルが高いため、地域の方から学生へ声を掛けてもらえるとハードルが下がる。</p> <p>第3分科会</p> <p>コーディネーター：清水 洋子 中央区区民会議委員</p> <p>参加者：区民会議委員6名 一般参加者28名</p> <p>1 分科会のテーマについて</p> <p>「子育て世代から見た、子ども、子育てを通じた地域参加について」</p> <p>2 取組事例について</p> <p>(1) お父さんのPTA活動を通じた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員初年度において、仕事のスケジュールについて理解してもらい、非番となる日に会議を開いてもらうなどの配慮をしてもらえた。 ・PTAと地域団体で「あいさつ運動」を実施しているが、自由に参加してくださいといった趣旨のお知らせをして、強制力を持たせないようにしている。 ・自身のPTA活動が継続している理由は、楽しくやることをモットーとしているためである。 ・保護者にPTA活動へ興味を持ってもらう工夫の一つに、広報委員は、競技フィールド内に入って自分の子どもの写真撮影をして構わないというメリットを打ち出した。
-------------------------------	--

<p>第2部 (分科会) (続き)</p>	<p>(2) お母さんの子ども会活動を通じた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事を持っているが、ライフスタイルに合わせて、担当できる業務を割り振りしてもらった。 ・担当業務がスムーズに行えるよう、経験者が役員に残る運営をしていた。 ・言葉や習慣の違う外国籍の方とのコミュニケーションについて、学校のサポートもあり乗り越えることができ、よい経験となった。 ・子ども会と自治会のつながりが強く、転入時においては、自治会加入と同時に子ども会へも加入する地域特性がある。 <p>3 まとめ(課題 解決するためのヒント)</p> <p>子育て世代は、楽しくなければ参加しない世代である。 若い世代が興味のある分野を模索する必要がある。 役員になることで、メリットが感じられる工夫をする。 仕事や家庭がある中で、地域活動に参加することが時間的に難しい。 ライフスタイルを理解し、担当できる業務の配慮や会議開催日などを弾力的にするなどの工夫をする。 行事等の参加が自由な雰囲気醸成し、強制力を持たせない。 言葉や習慣が異なる外国籍の家庭が増えている。 お互いの文化の違いを理解し、活動の内容をゆっくり伝えていく工夫をする。 地域のさまざまな団体が弱体化しつつある。 若い世代と、現在の担い手世代相互が補える架け橋をつくる。 PTAや子ども会の役員を終えた方が、公民館や自治会活動などの次のステップへ活躍のフィールドを広げてもらうための活動を、現在の担い手が行う必要がある。</p>
<p>第3部 (全体会)</p>	<p>意見交換 井狩会長、 : 一般参加者、 各分科会コーディネーター</p> <p>1 学生や若い世代の地域活動の参加を増やすための事例について 自治会活動において、若い世代との信頼関係を構築する上で、定期的に若い世代で構成された団体と対話を持っている。その際、要望事項をはっきりと伝えること、感謝の気持ちを言葉でしっかりと伝えることを大切にしている。 若い世代、特に学生の地域活動の参加を増やすための工夫について、第2分科会に対してお尋ねしたい。</p>

第3部
(全体会)
(続き)

高校生の例では、地域イベントでは数名程度の参加であるが、大雪が降った時には、多くの学生が地域の雪かきをしたいと申し出たとのことであった。潜在的には、地域に貢献したいという気持ちがあることから、日常的な地域貢献活動を企画していくことや、その土壌を育むことが必要である。

2 活動の「楽しさ」について

親は、子どもが楽しんだり喜んだりできる事業に参加する共通点がある。

「楽しさ」とは、やりがい、成果、達成感につながるものではないか。PTA活動においても、子育て世代にとって成果が実感できる運営を心掛けている。

直接的な楽しさが深化し、やりがいや達成感へ変化することが重要であり、そのような魅力があれば子育て世代が地域活動へ参加するのではないかという力強い意見である。

3 大学生が地域活動を優先することになったきっかけや、自分自身の成長について

(桜美林大学 大学祭実行委員) イベント運営の補助など、地域活動そのものが大学祭を運営する上で貴重な経験となった。また、知り合った大人は、自分の存在を認めてくれて、地域で気軽に声を掛けてもらえる達成感があった。そのような経験が将来役に立つと実感した。

(和泉短期大学 「はっぴい」) 地域の家庭と継続的に接することにより、子どもたちを観察し、成長する様子を気づけるようになった。

地域活動に参加することは、自身の成長が実感できるほどの経験ができるという点で共通している。

まとめ (井狩会長より)

1 信頼関係や「自己肯定感」について

- ・信頼関係を構築するためには、定期的に対話を持ち、日頃から信頼していることを伝えること。
- ・若い世代に何を期待しているか、具体的な内容を伝える。
- ・必ず感謝を伝え、若い世代に「自己肯定感」や地域での存在感を持ってもらうこと。

2 「楽しい」について

- ・何かを課せられた参加ではないこと。
- ・さまざまな世代が楽しいと思えることを掘り起し、住みやすい地域をつくること。
- ・達成感が楽しいにつながっていくこと。

<p>第3部 (全体会) (続き)</p>	<p>3 公共性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的に始めた活動であっても、公共性があるものは、地域に還元されるサービスであること。 ・ささいな活動、日常的な活動であっても、公共的なものとして地域に還元されると思うことができると、達成感や地域のより良い変化を期待できるといった、わくわくする気持ちにつながること。 <p>講評 (和田教授より)</p> <p>1 「自由」という言葉について 地域活動の側面においては、自発的、自主的で強制力がないこと、すなわち「自ら」ということが重要なポイントである。 また、地域コミュニティやその活動は、開放性に満ちた自由度の高い参加、活動を通じて個々の自己実現につながるものである。</p> <p>2 多様な人々を受け入れることについて 居住期間、外国の方、ハンディキャップのある方など多様な人々によって地域は成り立っており、例えば、学生のように卒業までの短期間の滞在であったとしても、その期間に自らが積極的に参加することによって得られるところが多ければ、地域コミュニティの側が積極的に受け入れるべきである。</p> <p>3 日常的な活動の重要性について 地域づくりとは、大上段に構えて何かしなければいけないということではなく、大雪や災害など何かあったときにかかわれる日常的な活動が出発点である。</p> <p>4 世代間のコミュニケーションについて 世代間において、信頼があるなかで要望を言い合える関係が地域コミュニティにおいて重要である。</p> <p>5 地域活動が「公共サービス」であることについて 社会関係、特に地域活動とは、お金で計ることができない、何か数値で出てくるものではないため、価値がわかりにくいものである。</p>
-------------------------------	---

(4) 議論のまとめ

拡大区民会議に参加した区民と区民会議委員が行った意見交換や、その後の区民会議において議論した内容について、課題を解決するためのヒントや事例としてまとめました。今後の地域活動活性化のヒントとなれば幸いです。

信頼関係

現状や課題

- ・若い世代が自由に活動できる環境が整っていない。
- ・若い世代が何を望んでいるのか、何に困っているのかを把握できていない。

解決するためのヒントや事例

- ・年配の担い手は、若者を見守る優しい気持ちを持つことが重要である。
- ・若い世代に何を期待しているのか、具体的な内容を伝える。
- ・若い世代が発言しやすい雰囲気意識してつくる上で、世代間の意見交換会を開催している。(自治会役員と自治会青年部や子ども会育成会など)
- ・任せたことは、口出しをしない。
- ・相談はしっかり受け止め、サポートを求められれば支援する。
- ・事業が終了した際には、感謝や慰労を忘れず、「自己肯定感」や地域での存在感を持ってもらう。
- ・地域の協議会は、構成団体の代表や役員に固定化されているので、若者世代でも参画できるような仕組みづくりが必要である。

楽しさ、きっかけづくり

現状や課題

- ・「楽しさ」や興味がわからなければ参加しない。
- ・若い世代は、「地域活動」という言葉に高いハードルを感じている。
- ・結果として地域に貢献している活動に参加する若者は多い。

解決するためのヒントや事例

- ・直接的な「楽しさ」が深化し、達成感へ変化することが重要である。
- ・子育て世代は、子どもが楽しんだり喜んだりできる事業に参加するので、そのような企画を意識するとともに、参加者と積極的にコミュニケーションを取る。
- ・(PTA) 広報委員を引き受けると、体育祭の時はフィールド内で撮影自由といったメリットが感じられるような工夫をしている。
- ・若い世代が企画した事業を地域や団体が受け入れ、現在の担い手はそのサポートに回る。

ライフスタイル

現状や課題

- ・学業、仕事、育児、介護など、それぞれが多忙であり、役員や行事の当番などを引き受けるにあたり、時間的な問題から二の足を踏んでしまう人が多い。

解決するためのヒントや事例

- ・お互いがライフスタイルを理解し、できる範囲のことをお願いする。
- ・前例にとらわれない。例えば、各年度の役員が一番合わせやすい定例会議の日程にするなど、参加できる環境を整えることが重要である。
- ・ささいな活動、日常的な活動であっても、公共的なものとして地域に還元されていると感じることが地域活動の出発点である。
- ・参加が自由な雰囲気醸成し、強制力を持たせないことが活動を長続きさせる上で重要である。

ただし、あまりに自由度が高くなると、事業そのものが成立しなくなる可能性があり、バランスがとても難しい。

担い手の発掘、育成

現状や課題

- ・役員の成り手を探すことが大変である。
- ・担い手の世代交代が進まない。

解決するためのヒントや事例

- ・子ども会やPTAの役員、少年野球やドッジボールの指導者などを、現在の担い手が把握し、積極的に接点を持つことにより、地域活動などの次世代の担い手づくりにつなげていく。
- ・60～70歳代の担い手が、20～30歳代と接点を持つことは難しいため、50歳代の担い手とのつながりから、その下の年代につながるようなネットワークづくりが重要である。
- ・地域活動から疎遠となっていた人に対して、退職等で時間にゆとりができたタイミングで地域が迎え入れる雰囲気づくりを大切にする。

小、中学生

現状や課題

- ・都市化が進んでおり、農作業といった地域が一体となって社会的な活動をする機会が少ない。
- ・子ども会や少年野球、ドッジボールなど、地域の大人が指導者として接している子どもの数が減少している。
- ・子ども達が保護者となった時、地域に育まれた記憶が薄いと、地域活動に参加する意識が希薄となる。
- ・地域活動の重要性は、小、中学生の頃から、無意識のうちに育まれる。

解決するためのヒントや事例

- ・PTAや自治会が中心となり、あいさつ運動や放課後の見守り活動をすることで、地域の大人と子ども達の接点がある。
- ・地区社会福祉協議会が地域の中学校と共同で、学生ボランティアのコーディネーターを行っている。
- ・教育過程における社会科見学や職場体験は、社会性を育む上で有効に機能している。

高校生

現状や課題

- ・平日には、学校行事、部活動、塾などがあり、時間を割くことが難しい。
- ・ボランティアといわれてしまうと気後れする生徒も、地域の役に立ちたいという気持ちを持っている。

解決するためのヒントや事例

- ・普段から大きな期待をかけることは難しいが、大雪の際、学生たちが自発的に道路の雪かきをした実績があり、地域に意識がある頼もしい存在である。
- ・地域の小、中、高校が連携し、地域の体育祭や部活動の指導など、学齢を超えた取り組みに成功している。
- ・吹奏楽、美術、ダンス等の発表の場を提供し、学生と時間をかけて信頼関係を構築した後に、イベント運営のボランティアをお願いしている。

大学生

現状

- ・大半は、区外はもとより、市外から通学しており、卒業とともに生活の拠点が他の地域へ移る。
- ・地域活動に参加する学生は、自己実現のための目的意識が高い。
- ・学業やアルバイトと地域活動を両立することが難しい。
- ・学生個人がいきなり地域活動へ参加するにはハードルが高い。

解決するためのヒントや事例

- ・大学祭実行委員会など、学生団体と地域が結びついていると、ボランティア活動が継続するが、個人との関係では活動の継続が難しい。
- ・地域の大人との信頼関係が、結びつきを強固にする。
- ・地域活動を行っている団体に所属している学生であれば、地域活動へのハードルは低くなり、巣立っていった後も、自分が住んでいる地域にも興味がわく。
- ・イベントボランティアに参加したくてもできない理由の一つに、会場までの交通費等の負担がある。(大学生は、市内在住とは限らない。)



基調講演



第1分科会



第2分科会



第3分科会

5 審議経過

(1) 中央区区民会議の審議内容(概要)

開催日・回次等	主な内容
平成26年8月5日 第1回(通算第29回)	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区区民会議の概要等について ・中央区区ビジョンの推進体制について ・今後の進め方について
平成26年11月24日 第2回(通算第30回) *「平成26年度中央区拡大区民会議」 として開催	<p>第1部 基調講演 講演者 牧瀬 稔さん (一般財団法人地域開発研究所 主任研究員) “魅力あるまちづくりに向けた連携・協力のヒント”</p> <p>第2部 パネルディスカッション コーディネーター 井狩 芳子 中央区区民会議会長(和泉短期大学教授)</p> <p>【パネリスト「発表」】</p> <p>石井 トシ子 中央区区民会議委員 (相模原市公民館連絡協議会副会長) “公民館活動を通じた地域のつながり”</p> <p>佐々木 亮一 中央区区民会議委員 (公益社団法人相模原青年会議所理事長) “選ばれるまち相模原(中央区)と協働”</p> <p>平林 清 中央区区民会議委員 (光が丘地区まちづくり会議会長) “よいまちをつくるためには”</p> <p>横山 房男 中央区区民会議委員 (相模原商工会議所1号議員) “地域で拠点となり発信する商店街へ”</p> <p>【パネルディスカッション・意見交換】</p>
平成27年2月16日 第3回(通算第31回)	<ul style="list-style-type: none"> ・相模原市中央区意識アンケートの結果(速報)について ・中央区拡大区民会議の結果について ・「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について ・中央区区ビジョンの取り組み状況について ・中央区区ビジョンの推進について

<p>平成27年6月16日 第4回（通算第32回）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度中央区役所の主要事業について ・「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について ・今後の中央区区民会議について ・まちづくり会議の状況と中央区アンケート調査の実施について
<p>平成27年10月8日 第5回（通算第33回）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度中央区区ビジョンの取り組み状況について ・平成27年度「中央区拡大区民会議」の開催について ・（仮称）相模原市総合戦略の策定に向けた検討状況について
<p>平成27年11月15日 第6回（通算第34回）</p> <p>*「平成27年度中央区拡大区民会議」として開催</p>	<p>第1部 基調講演 講演者 和田 清美さん （首都大学東京都市養学部教授） “地域活動・まちづくりへの課題：若者世代・学生・子育て世代”</p> <p>第2部 分科会</p> <p>第1分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 石井 トシ子 中央区区民会議委員 （相模原市公民館連絡協議会副会長） ・テーマ 若い世代の地域参加について <p>第2分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 久松 伸 中央区区民会議委員 （麻布大学講師） ・テーマ 学生の地域参加について <p>第3分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 清水 洋子 中央区区民会議委員 （相模原市私立保育園園長会） ・テーマ 子ども、子育てを通じた地域参加について

	<p>第3部 全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 井狩 芳子 中央区区民会議会長 (和泉短期大学教授) ・内容 各分科会の結果発表と意見交換
<p>平成28年2月18日 第7回(通算第35回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相模原市中央区拡大区民会議の結果について ・「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について ・「～まちづくり会議委員を対象とした～ 中央区区民アンケート報告書」について ・若者世代の地域活動への参加に向けて
<p>平成28年5月24日 第8回(通算第36回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度中央区区ビジョンの取り組み状況について ・第3期区民会議活動報告書について

(2) 第 3 期 中央区区民会議委員名簿

(氏名 50 音順 敬称略)

氏 名	所属団体等
井 狩 芳 子	学識経験者 (和泉短期大学)
石 井 ト シ 子	相模原市公民館連絡協議会中央区ブロック
井 上 政 市	相模原交通安全協会
浦 上 裕 史	一般社団法人相模原市観光協会
河 本 博	大野北地区まちづくり会議
木 内 哲 也	一般社団法人相模原市医師会
木 村 清	横山地区まちづくり会議
坂 本 洋 三	相模原市地区社会福祉協議会連絡協議会中央区連絡会
佐 々 木 亮 一	公益社団法人相模原青年会議所
清 水 洋 子	相模原市私立保育園園長会
代 田 昭	中央地区まちづくり会議
関 戸 丈 夫	田名地区まちづくり会議
武 井 弘 吉	小山地区まちづくり会議
竹 田 幹 夫	星が丘地区まちづくり会議
田 代 明 寛	清新地区まちづくり会議
田 所 昌 訓	相模原市自治会連合会
千 葉 更 男	公募委員
永 井 廣 子	相模原市立小中学校 P T A 連絡協議会
中 西 豊 和	相模原市民生委員児童委員協議会
長 谷 川 光 義	上溝地区まちづくり会議
久 松 伸	学識経験者 (麻布大学)
平 林 清	光が丘地区まちづくり会議
本 郷 永 子	公募委員
宮 津 敏 信	公募委員
横 山 房 男	相模原商工会議所

会長、 副会長

6 結びにかえて

相模原市中央区区民会議 会長 井狩 芳子
(和泉短期大学教授)

私が教育学に関心を持つきっかけとなった出来事の一つとして、約40年前保育者を目指して入学した大学時代に見た一本の映画との出会いがあります。社会教育学の授業で観たその映画とは、長野県恵那地域を舞台に住民全体の健康水準を高めることに心血を注いだ一人の医師の取り組みを追ったドキュメンタリー映画でした。若き医師は恵那地域の住民の生命線を担う中、真の医療とは様々な主訴を持つ患者様を治療する際、病気そのものの治療に加え、関連課題について地域全体の視点から探る必要性もあることに気付き、特に後者の活動を長年続けた結果、地域住民の健康水準は画期的に押し上げられたという、地域のマクロの力に焦点を当てた社会教育学上大変意義のある内容でした。

さて、この任を頂きました平成26年7月当初、研究領域が社会学ではない私は、相模原市中央区について知識を得ることに主眼をおいていました。が、本映画のことを思い返し、このマクロな視点をたどっていけば進んでいく道があるかもしれないと一筋の光を見出した思いでした。

私自身試行錯誤を続ける中、第3期の区民会議は、既に提示されていた区ビジョンと住民の皆様との“つながりとその具体”に重点を置いて、2回の拡大区民会議の開催を経て、今、その任期が終わろうとしています。拡大区民会議は事務局の皆様の周到的な事前準備と全委員のアイデアや力を生かした内容でしたが、一步踏み込んだつながり方を見出せたことは今後の糧となりました。

地域の課題は多岐にわたり、“つながる”方法も千差万別であり、先の映画のように主な課題を一つに絞ることは容易ではありません。しかし、本会議は幸いにも25名の委員から構成されていますので、そのメンバーの力を最大限駆使しながら、さらに第4期へつながっていくことを期待したいと思います。軽やかにつながることで、当地相模原が、“気が付けば住みやすい地域”になっていることを願っています。2年間、ありがとうございました。

相模原市中央区区民会議 副会長 田所 昌訓

(相模原市自治会連合会 会長)

平成22年の政令指定都市移行に伴い、1期2年の任期である区民会議が各区に設置され、中央区区民会議では、第1期に「相模原市中央区区ビジョン」を市長へ答申し、第2期では、策定した区ビジョンに基づき「地域資源を活かし、魅力ある中央区を創出する」を重点テーマに、具体的な取り組みの提案を行いました。

そのような中で迎えたこの第3期は、区ビジョンの実現に向けた実行組織となる「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」と連携した中で、個別の課題である区民や地域の連携、若い世代の地域参加など、次世代へ活動をつなぐための課題共有に取り組んでまいりました。

また、これらの課題を区民の皆さんと共有するため、「拡大区民会議」を催し、地域活動の担い手不足の解消に向けた様々なお意見をいただきました。とりわけ、担い手が不足している現状について、子ども会やPTA等では、様々な情報網により新たな担い手が探求・形成されている反面、子ども自治会関係者は、地域の中で担い手を探すにも、情報の不足により人材を発掘できないことが多く、その意味において若い世代の地域全体への協力は必要不可欠なものとなっています。

若い世代の方においても、直接の利害が自分に及ぶものについては多くの方々が参加する傾向にあることから、私たちがもう少し直接的に、若い世代の方にも成果及び活動の経過を積極的に情報発信し、興味を抱いてもらわないと、若い世代の参加促進は解決できないことであると感じているところです。

最後に、本報告書の発行をもって第3期の議論をまとめることにより、地域の担い手の育成と発展に向け、今後の区民会議やまちづくり会議などでの議論の一助となり、活用されることを祈念します。

中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト

中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクトは区民会議や各地区まちづくり会議の議論を踏まえ、各種活動団体との協働、地域の課題解決を通じて、「安全で安心して暮らせる」、「夢と希望がもてる」まちづくりをめざし、平成26年8月にスタートしました。

行政、大学、NPO、自治会など、様々な分野で活躍する皆さんが集まり、「防犯・交通安全」、「福祉・健康」、「文化・教育・スポーツ」、「商業・イベント」、「魅力発信」の各種事業プロジェクトと、その広報宣伝に向けた取り組みにあたっています。

1 プロジェクトの目的・視点

プロジェクトの目的	区ビジョンの実現 ・これまでの区民会議等で議論されてきた結果の実現化 ・各地域の地域活動団体や市民活動団体の活動の支援強化 ・各地域で抱えている解決すべき課題への取り組みの加速化
プロジェクトの視点	異業種交流と協働、男女共同、若者の参加 ・地域の活動団体等、幅広い主体による横断的な取り組み(“異業種交流”) ・地域の活動団体等と区役所との“協働”による取り組み ・男女共同参画と若者の参加による取り組み

2 組織

位置付け	プロジェクトの実行組織で、区長が指名する委員で構成
組織	実行委員会 役員会(委員長、副委員長、監事で構成) プロジェクト部 (1) 防犯・交通安全 (2) 福祉・健康 (3) 文化・教育・スポーツ (4) 商業・イベント (5) 魅力発信(平成27年8月で終了) 広報宣伝部
区民会議との関係	実行委員会は、プロジェクト事業の検討及び実施にあたって、区民会議に必要な情報提供を行うとともに区民会議の意見を尊重する。 (設置要綱第3条(区民会議との連携))



3 各プロジェクト班

(1) 防犯・交通安全プロジェクト

ア 対応する区ビジョン基本方針

「 2 地域の安全・安心対策に取り組みます 」

イ 取組方針など

女性と子どもの安全対策

自転車と高齢者の交通事故対策

「自転車事故多発地域」と「高齢者事故多発地域」の指定解除、及び「振り込め詐欺」と「自転車盗難」の撲滅を目指して、効果的な各種取り組みを行う。

ウ 主な取り組み

平成27年 2月 振り込め詐欺・自転車高齢者事故啓発チラシ・ポスターの制作

平成27年 3月 啓発のぼり・横断幕の作成

平成27年 随時 啓発グッズを活用し、防犯・交通安全キャンペーンの実施

平成28年 3月 セーフティーリーダー()講習会の開催

()子どもたちの交通安全・防犯への意識向上を図ることを目的に、区内の小学生38人をセーフティーリーダーとして、平成27年12月に任命しました。

主な活動内容は、交通安全・防犯教室への参加、校内での交通事故防止や犯罪防止の事業での模範演技、交通事故防止キャンペーンの参加、自転車用ヘルメットの着用などです。



市民まつりパレードでのPR



番田駅前駐輪場への横断幕掲出



区内各小学校の代表を
“セーフティーリーダー”に任命



交通安全・犯罪防止
啓発ポスター

(2) 福祉・健康プロジェクト

ア 対応する区ビジョン基本方針

「 1 地域の福祉向上と心と身体の健康づくりに努めます 」

イ 取組方針など

- ・高齢者の見守りや生きがいづくり活動の新展開
- ・地域の新たな子育て支援環境の創出

高齢者がいきいきと安心して暮らせる支えあいのまちづくりを目指し、地域での見守りをより充実させるため、地域が実施しているネットワークづくりを応援（側面支援）する。

ウ 主な取り組み

- | | | |
|-------|----|--|
| 平成27年 | 3月 | 清新地区をモデル地区とし「方言ラジオ体操」、高齢者の見守り・支えあいの取り組みをお知らせする「紙芝居」の実施 |
| 平成27年 | 7月 | 民児協、地区社協、高齢者支援センターへ活動報告 |
| 平成28年 | 2月 | 公民館長中央ブロック会議において活動報告 |
| 平成28年 | 3月 | 活動を周知するチラシ・ポスターの制作 |



方言ラジオ体操のデモンストレーション



ご近所見守り紙芝居

(3) 文化・教育・スポーツプロジェクト

ア 対応する区ビジョン基本方針

「 5 文化の振興に取り組みます 」

イ 取組方針など

- ・潤い、安らぎと元気を与える文化活動、教育活動やスポーツ活動の新展開。
- ・文化・教育・スポーツを通じた青少年の健全育成

日頃から身近にある文化活動に関心を抱いてもらい、その活動へスムーズに繋ぐ(橋渡しする)ことによって、文化の担い手育成や区民の文化活動のさらなる推進を実現する。

ウ 主な取り組み

平成27年 7月 中央区体験する文化祭の開催

【 内容と参加団体 】

内容	参加団体
三味線	相模原市民謡協会
尺八	相模原市民謡協会
工作	子ども絵画工作指導
絵手紙	県立弥栄高校
天文科学	JAXA(宇宙航空研究開発機構) KUMA(子ども・宇宙・未来の会)
キッズダンス	桜美林大学
手品	防犯エンターテイメント集団 GIFT
写真	東京造形大学
華道	相模原華道協会
能	能楽普及推進会
茶道	相模原市茶道連盟



茶道



キッズダンス

(4) 商業・イベントプロジェクト

ア 対応する区ビジョン基本方針

「 10 地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出します 」

イ 取組方針など

- ・商店街とアートの融合によるまちづくりの新展開
- ・中央区らしさを演出、発信するイベントの新展開

区内のイベントを表彰することで、新たなイベントの発掘と既存イベントの更なる活性化をはかり、中央区らしい地域資源と地域固有の文化を守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、地域の活性化をすすめる。

ウ 主な取り組み

平成27年 8月 第1回中央区イベント大賞 表彰式

賞	イベント名	主催団体
イベント大賞	大野北イルミネーション	大野北イルミネーション 実行委員会
優秀賞	光が丘ふれあい・いきいきフェスタ	光が丘フェスタ実行委員会
奨励賞	横山地区どんど焼き	横山地区どんど焼き実行委員会
奨励賞	第2回ムーンウォーク世界大会	にこにこ星ふちのべ協同組合
奨励賞	リパティータウン 第10回絵本コンクール	相模原中央商店街協同組合
審査員特別賞	青山学院大学 箱根駅伝優勝祝賀パレード	にこにこ星ふちのべ協同組合



(上:表彰式の様子)

(右:募集チラシ・ポスター)



(5) 魅力発信プロジェクト

ア 対応する区ビジョン基本方針

「 10 地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出します 」

イ 取組方針など

中央区の歌の制定及び活用

ガイドマップや観光情報誌の作成による情報発信

イベントの出席による情報発信

区の魅力を発信し、区民の皆さんに広く知ってもらい実感することで、区への愛着や誇り、ふるさと意識を持ってもらい、区民意識の醸成と区の一体感の醸成につなげる。

ウ 主な取り組み

- 平成 26 年 10 月 「中央区の歌」お披露目
- 平成 27 年 3 月 「中央区の歌」CDの製作
- 平成 27 年 3 月 ラジオドラマ第1話「原始の時代を体験できる街」を放送
(エフエムさがみ)
- 平成 27 年 4 月 「中央区の歌」 & 「区ビジョンイラスト」チラシの作成
- 平成 27 年 9 月 ラジオドラマ第2話「上溝の恋」を放送
(エフエムさがみ)



中央区の歌・区ビジョンチラシ



PR グッズ (区ビジョンパネル、区旗、魅力発信キャンディ)

ラジオドラマ収録

(6) 広報宣伝部

ア 対応する区ビジョン基本方針

「 14 身近でわかりやすい行政サービスや情報の提供に努めます 」

イ 取組方針など

- ・地域メディアとの連携
- ・実行委員会の広報活動
- ・地域メディアとの連携

区全体の魅力ある情報と並行し、各プロジェクトの取組状況に応じた情報を中心に、区版広報やホームページなどの様々な広報媒体を活用して発信し、区民の誰もが中央区に関心を抱き、愛着を持てるようにする。

ウ 主な取り組み

平成27年 1月 「はみだし中央区」をエフエムさがみで放送開始

平成27年 2月 「はみだし中央区」を区版広報紙で掲載

平成27年 4月 第1期「中央区さくら咲くボーイズ39」誕生

【主な出演イベント等】

- ・市民若葉まつり(5月)
- ・大野北銀河まつり(8月)
- ・ペインティングパフォーマンスグランプリ(10月)
- ・潤水都市さがみはらフェスタ(10月)
- ・光が丘ふれあい・いきいきフェスタ(11月)
- ・エフエムさがみ「大好き中央区」番組出演

平成28年 3月 第2期「中央区さくら咲くボーイズ39」誕生



区内で行われた各イベントにおいてPR活動を実施

相模原市中央区区民会議 報告書

～ 区民や地域の連携、若い世代のまちづくりへの参加について ～

発行 平成28年7月
相模原市中央区区民会議

編集 相模原市中央区役所 区政策課
神奈川県相模原市中央区中央2 - 11 - 15
電話 042 - 769 - 9802
